

## 2018年ノーベル平和賞受賞者デニ・ムクウェゲ 医師の広島訪問をサポートしました

2019/11/1 INFO

ピースボートの活動  
PROJECTS

プロジェクト: [核廃絶](#)

[核廃絶](#)

[この活動について](#)

[参加のしかた](#)



2018年ノーベル平和賞受賞者デニ・ムクウェゲ医師の広島訪問の様子

2018年ノーベル平和賞受賞者でコンゴ民主共和国（以下、コンゴ）の婦人科医デニ・ムクウェゲ医師が広島を訪問しました。今回の来日は、医師が現在行っている「平和、正義、女性の権利」に対する世界的なキャンペーン活動の一環で、コンゴの性暴力と紛争を考える会(ASVCC)や東京大学が中心となって招聘したものです。ピースボートは2017年ノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の国際運営団体として、ICANの加盟団体であるNPO法人ANT-Hiroshimaと共に、庭野平和財団からの支援を得て、10月5日～6日の2日間で医師の広島訪問をコーディネートしました。

### 被爆者の声を世界に伝える大使になる

2日間の広島滞在中に、医師は平和公園を自らの足で歩き、原爆で両親を失った被爆者の笠岡貞江さんから体験談を直接聞きました。体験談の後、「暴力は、暴力しか作り出さない。私たちは被爆者の声を世界に伝える大使になる」と述べて笠岡さんに歩み寄りしました。

原爆資料館では、滝川卓男・平和記念資料館館長から被爆者の身体的な被害について説明を受けました。芳名録には「この場所で完全なる恐怖を経験しました。核兵器は廃絶されるべきです。私たちの人間性は、恐怖から守られなければなりません。」と記し、原爆慰霊碑にも献花しました。



被爆者見学会を終えた笠岡貞江さんと

その後、松井一實・広島市長を表敬し、「広島市の活動は悲劇を繰り返さないために、記憶を残し、考えさせることだと思う」と述べ、原爆直後の広島と現在の広島を見比べることでコンゴの未来への希望を感じると伝えました。

また、コンゴで鉱物が不法採取されていることを訴え、コンゴ国内での平和首長会議の拡大に協力を表明しました。

### 無関心は重大な脅威

10月6日、ムクウェゲ医師は平和記念資料館にて広島  
の市民300名に向けて講演をしました。

23年前の1996年、同じ10月6日にコンゴ東部のムクウェ  
ゲ医師の勤めていた病院が襲撃され30人が犠牲になり、  
そこからコンゴの紛争が始まりました。

以来23年にわたり武力紛争が事実上続いており、これま  
でに600万人を越えると言われる犠牲になった人々を思  
い、黙祷しました。それを受けて医師は、広島で原爆の  
被害に遭った方々を思って黙祷を捧げました。

医師は講演の中で「性暴力が戦力、戦略として強引かつ  
屈辱的に使用されており、人やコミュニティへの影響を  
過小評価すべきでない」と強い口調で話しました。



内訳で「広島とコンゴはつながっている」と語り、性暴力が  
武器として使われている

大規模かつ組織的に行われる性暴力によって、人間性が破壊され、レイプから生まれた子どもたちは暴力の連鎖  
にしか生きられず、経済能力は破壊され、支配者や権力者の鉱物違法採掘に繋がることを説明しました。

それに対して、コンゴ東部のパンジにワンストップ・センターを作り、被害者を医療的、精神的、社会経済的、  
法的にと包括的に支援していることを話しました。

医師はくり返し「広島とコンゴはつながっている」と述べました。広島原爆のウランはコンゴから掘り出された  
ものだったとされています。

今日、コンゴの武力紛争が続くことは、ウランを含む鉱物の不安定な管理が続くことであり、それは核兵器の拡  
散にもつながり世界中の人々を不安に陥れます。

私たちの手元にあるコンピューターやスマートフォンに使われているレアメタルが、コンゴの紛争の原因となっ  
ています。ムクウェゲ医師は最後に訴えました。「関心をもってください。無関心こそが重大な脅威でありま  
す」と。

## 核兵器は減らす核兵器は減らすだけでなく、廃絶すべき

広島を訪問したムクウェゲ医師は、被爆者から直接被爆  
体験を聞き、資料館を見学。70年あまり経った今でも  
原爆の苦しみと被害が終わっていないことを知り、「現  
在の世界でも脅威であり続けている核兵器を減らすの  
では不十分。廃絶するべきである」と述べました。

そして、被爆者が提唱して全ての国に核兵器禁止条約へ  
の参加を求める「ヒバクシャ国際署名」にも署名しまし  
た。

ピースボートは、他者を思いやること、痛みを共感する  
ことが平和への道であると信じています。そして、コン  
ゴで今もおお続く性暴力、紛争鉱物利用とグローバル経  
済のつながりに対する問題意識を高め、武器としての性  
暴力と核兵器のない世界をめざしてこれからも歩みを共にすることを誓いました。



ヒバクシャ国際署名に署名

## 多数のメディアで紹介されました

ムクウェゲ医師の広島訪問の様子は、以下のメディアで  
紹介されています。

2019年9月20日 毎日新聞 ノーベル平和賞 平和賞の  
医師が語る 紛争下の性暴力など 来月6日、広島・原  
爆資料館

2019年9月23日 中国新聞 紛争地の性被害 目を向け  
て ノーベル賞を受賞 コンゴの医師講演

2019年9月25日 朝日新聞 コンゴの医師 来月広島で  
講演

2019年9月26日 共同通信（宮崎日日新聞、琉球新報、  
福島民友など） 平和賞の産科医が被爆者面会へ

2019年10月5日 NHK広島 ノーベル平和賞のムクウェ  
ゲ医師 広島訪問で犠牲者に祈り

2019年10月5日 広島ホームテレビ ノーベル平和賞受賞のムクウェゲ氏 被爆者と対談

2019年10月5日 RCC中国放送 ノーベル平和賞のムクウェゲ医師 平和公園訪問

2019年10月5日 毎日新聞 ノーベル平和賞のムクウェゲ氏が広島  
の原爆資料館を初訪問 被爆者と面談

2019年10月5日 共同通信 平和賞医師、原爆慰霊碑に献花 広島、被爆者と面会も



AMNHildesheimの平和賞を受賞したムクウェゲ氏



2018年  
ノーベル平和賞  
受賞者

デニ・ムクウェゲ医師講演会 in ヒロシマ  
グローバルな平和と正義をめざして

入場  
無料  
通訳付き

日時 2019年 10月6日(日) 9:15開場  
9:30開会 (~11:15)

会場 広島平和記念資料館地下 メモリアルホール  
広島県広島市中区中島町1-2

お申込 事前申込を9月30日(月)までに以下のいずれかの方法でお願いします。  
●オンラインフォーム: <https://forms.gle/9QddeMbZqgbHZRTS9>  
●ファックス: 03-3363-7562 (ピースボート事務局: 担当渡辺)  
「氏名」「連絡先(電話番号等)」「所属・職業・学校等」をご記入のうえ送信してください。  
報道目的の方は、媒体名と共にその旨を明記してください。(講演会終了後、記者会見を行います)



開催趣旨

アフリカ中部のコンゴでは1996年から紛争が続き、これまでに600万人の犠牲者が出ています。特にコンゴ東部では、豊富な鉱物資源を資金源として100を超える武装勢力が闘争を続け、住民に対する人権侵害が横行しており、その中で、組織的な性暴力が行われています。デニ・ムクウェゲ医師は、コンゴ東部のパンジ病院で性暴力の被害女性たちの救済に力を尽くしてきました。その活動が評価され、2018年にノーベル平和賞を受賞しました。

今回、広島を初訪問するムクウェゲ医師は、広島平和記念資料館を訪ね被爆者と面会する予定です。その後に、グローバルな平和と正義の実現のための課題を語っていただきます。日本とコンゴの共通の課題を考える機会になればと思います。

本講演会が行われる10月6日は、1996年にムクウェゲ医師が勤務していたコンゴ東部の病院が襲撃され、30人以上が犠牲になった日です。それ以降、凄惨な紛争が23年にわたって続いているのです。

デニ・ムクウェゲ (Denis Mukwege)

1955年、コンゴ民主共和国(旧ザイール)東部ブカヴ生まれ。産婦人科医・人権活動家。

1999年、ブカヴにパンジ病院を設立し、これまで5万人以上の性暴力被害者の治療と支援にあたってきた。さらに、パンジ基金も設立し、被害者の保護活動だけでなく、本質的な問題解決のために国連本部をはじめ世界各地で性暴力被害に関する演説を行っている。

2018年、ノーベル平和賞をイラク人女性活動家ナディア・ムラド氏とともに受賞。

自伝に『すべては救済のために』(あすなる書房、2019年)、ドキュメンタリー映画に『女を修理する男』(配給: ユナイテッドピープル、2015年)がある。

【お問い合わせ先】 03-3363-7561 [pbglobal@peaceboat.gr.jp](mailto:pbglobal@peaceboat.gr.jp) ピースボート(担当: 渡辺)  
082-502-6304 特定非営利活動法人ANT-Hiroshima

【共催】ピースボート、特定非営利活動法人ANT-Hiroshima、コンゴの性暴力と紛争を考える会

【協力】公益財団法人広島平和文化センター

【後援】広島大学、広島修道大学、広島女学院大学、広島市立大学広島平和研究所

【助成】公益財団法人庭野平和財団



映画『女を修理する男』より